

仙台経済界

2019
5-6 月号
定価 670円



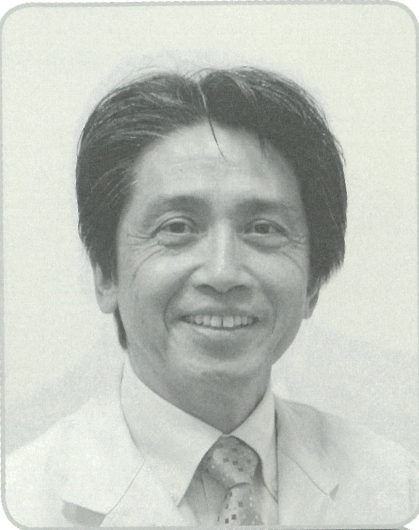
特集 仙台の生活利便性は増すか

キャッシュレス

【座談会】仙台の寺院で着々と進む国際化

【レポート】住宅団地の明日～南光台団地～／【シニアへ提案】せんだい自遊人クラブ

【レポート】宮城県の障害者雇用率は、いまだ全国下位



医療法人仁泉会
みやぎ健診プラザ
所長（専門：消化器内科）
藤田 直孝氏

ふじた・なおたか 1953年仙台市生まれ。79年東北大学医学部卒業。同年仙台市立病院勤務。81年仙台オープン病院勤務。2014年11月みやぎ健診プラザ勤務。18年4月所長就任。日本消化器内視鏡学会理事など。趣味はゴルフ。

地域の健康をサポートし 選ばれる施設に

みやぎ健診プラザ（仙台市若林区）は、周辺の事業所を中心に健康をサポートする施設として年々利用者が増えている。2018年4月に所長に就任した藤田直孝氏は、日本消化器内視鏡学会の理事を務めるなど、内視鏡のエキスパートとして病気の早期発見に尽力している。藤田所長に新たな取り組みなどを聞いた。

——みやぎ健診プラザの概要は。
藤田 母体の医療法人仁泉会は、

青森、岩手、宮城の3県において予防・医療・介護サービスを展開しています。本部を青森県八戸市に置き、職員数1700人で約70事業所を運営しています。みやぎ健診プラザは、2012年4月に東北の流通拠点である仙台市若林区卸町に開設しました。卸町は事業所が多い地域ながら、15年の仙台市地下鉄東西線開業を機に、商業だけでなく人や文化が融合した新たなまちづくりを進めていて、当プラザでは一般の方の健康診断のほか、企業健診の受診者のニーズにきめ細かく対応できるような体制を整え、まちづくりを健康面からサポートしていきたいと考えています。

——健診プラザの特徴は。

藤田 現在、検診車による巡回健診を東北6県で行い、施設での健診と合わせて年間の受診者は10万人

を超えています。当プラザでは一般的な健診のほか、頭部MRIや胃カメラなど、オプション項目も豊富に用意しています。館内には女性専用フロアを設け、快適な環境で受診できるよう、効率的で負担の少ない検査方法の導入に力を入れています。

——内視鏡のエキスパートとして病気の早期発見に力を入れています。

藤田 30年以上内科医として病院に勤務していました。当たり前ですが、病院はすでに病気になるてしまった人の治療をする施設です。『もっと早く発見できていれば』と思うことも多々ありました。そんなことから病気の予防や早期発見に力を入れたいと思うようになり、14年11月に副所長として当プラザに移り、18年4月に所長に就任しました。

現在、日本人の死因のトップは『がん』です。医学の進歩で臓腑がんのように見つけにくいがんも見つけられるようになってきていますし、また、内視鏡の技術が進み、今まで外科でしか治せなかったがんも初期のものでは内視鏡で見つけて治療できるようになっています。当プラザでは40〜60代の働き盛りの受診者が多いので、内視鏡検査を積極的にお勧めしています。内視鏡検査は、健診後に仕事に戻ったり休暇を有意

義に活用できるよう、できるだけ麻酔の量を少なくし、なおかつ検査の負担も軽くして、質の高い検査を行うように工夫していますし、スタッフも専門家をそろえています。

——今後については。

藤田 今年1月、最新鋭のMRIを導入しました。今までのMRIは圧迫感がありましたが、最新機器は空間の広いドーム型で、ドームの上部に魚が泳ぐ水族館のような画像が映りますので、リラックスして受診できるのが特徴です。ほかにも、高性能のマルチスライスCTや経鼻内視鏡などの医療機器を導入して肺がんや胃がん、大腸がん、脳卒中など脳血管疾患の予防・早期発見にも対応しています。今年は、男性の更年期障害や前立腺など、男性に特化したコースと、ドライブシミュレーターを活用して認知症を検査するドライバー健診を新たに提供する予定です。『自分の健康は自分で守る』のが鉄則。年1回の健診もいやいやではなく、1年の安全安心を確認するために進んで受けてほしいと思います。

当プラザでは、手際よく、苦痛なく済ませられる健診を目指しており、将来的には、遺伝子情報から未病につながる検査やAIも活用して健診に役立てたいと考えています。



牛たん焼きを
仙台名物にしたお店

味の牛たん
牛たん焼き
助